長田下地域自治　振興会だより　第３６号

２０１９年(令和元年)１１月２８日発行

令和元年度長田下地域自治振興会　運動会･敬老事業

10月13日(日)　下長田集会所にて

「天気よし、幸運だな・・」・・今年も台風での惨事が多いから、天候への心配がありましたが、当日は好天に恵まれ、参加１２０名あまり。元気でプレイしました。吉元笑葵さん、吉元聖愛さんの開会宣言の後、「ひとは」からの３名による選手宣誓を経て、４組に分かれて、互いに競い合いました。熟年者の活躍が見られたグラウンドボーリング。チーム全員が懸命に投げ上げた紅白の玉入れで盛り上がりました。
「子ども達も元気だな・・」・・少子化の中でも、かなりな数の子供達が暮らすこの地区。将来を担う子どもたちの元気な姿が見られたパン食い競争では、明るい気持ちになりました。
「お年寄りもご達者だな・・」・・今年も、７５歳以上の方の敬老行事として、振興会より記念品を贈呈しましたが、多くのご老人も元気で地区の柱を担っておられます。
その後は、昼食のうどんを美味しくいただき、成績発表。そして、寺尾さなさんの閉会宣言で無事終了しました。ふれあいと絆の充実した行事でした。関係者の方々ありがとうございました。　（T. K）

全員集合

団結がんばろう！

「パン食い競争」真剣だ！

「玉入れ」真剣そのもの

ひとはまつり見聞記　９月７日（土）

　せっかく楽しみにしているにもかかわらず中止になった昨年と違い、今年は好天に恵まれ、楽しい「ひとはまつり」に参加させてもらいました。
　「ひとはまつり」は、長年我が家の恒例になっている一家で参加できる楽しい祭りです。なにより私たちの心を和ましてくれるのは、「自治会きらら」の主催でありながら、地域の祭りと間違うほど地域の方々の参加があることです。
　それは企画の手伝いのみならず、参加者として場を盛り上げていることです。「言うは易く行うが難し」ではありませんが、やはり「まつり」は賑やかなのが一番ですから。本当に「ひとは」は、地域あってこその「ひとは」ですね。
　息子は、ステージの下で飛んだり跳ねたり、自分流に喜びを表現していました。近くにいた老夫婦の方がにこやかに見つめてくれていました。（以下略）

　上記のような手紙が届きました。本当にありがたいことです。「ひとは」のすがたをうまく表現していただきました。私にとって何にも代えがたい喜びは、参加者の方々と自治会きららの人たちが、ごく自然に触れ合う機会になっていることです。つくづく、この地域あってのまつりだと感謝しています。　　（B.T）

もちつき（明神クラブ）

飲食・出店も大盛況

焼きそば（六風会）

スーパーボールすくい（振興会）

『長田下地域の文化財保護と伝承』について考える㉑

今回も、前号に続き、長田下地域に伝わるお話、『弥三郎稲荷』のいわれについてお伝えします。長田７区下の、西岡さん宅前にある小さなお稲荷さんにまつわるお話です。

時は、南北朝時代（およそ６５０年前）。毛利氏の家臣である内藤教泰（のりやす）公が、長田に「田屋城」を築かれたその夜から、殿様は怪しいものにとりつかれて、うなされ苦しまれました。そこで、密教を修得していた広庵寺（こうあんじ）の住職に、法術（ほうじゅつ）（占い）を行わせると、一匹のやせ狐が現れ、悲しそうに、「わたしは、この山に百年ほど住む者でございます。殿様がこの山にお城を築かれてから、わたしどもは安心して生活する場所を失いました。かわりの住み家を与えて下されば、永遠に城を守る役目を果たしましょう。」と言います。そこで教泰（のりやす）公が「ならば、いかなる用をするのか。」と問われると、「殿様にお使えし、敵方の情報を集め、戦略のしかたなども申し上げましょう」と答えます。そこで、殿様は、西の小森に住み家を与え、狐に「弥三郎」と名つけました。それ以後、弥三郎は、敵方の様子をさぐり、味方の国々の間を人間業ではできないほどのスピードで駆け回り、活躍しました。それで、殿様は、弥三郎をとても大事にされました。

やがて、２００年の時が過ぎ、内藤元泰公の時代になり、弥三郎も３代目となっていました。弥三郎は、自分の勤めに、いっそうはげみました。

そのころ、毛利氏側は、尼子方の武田氏（広島市安佐南区祇園）と敵対するようになりました。武田氏側は、日ごろから弥三郎の活躍を知っていたので、三田村白木山のふもとに、ワナを仕掛けました。それと知らぬ弥三郎は、帰りにうっかり、そのワナにかかり、敵と必死に戦いましたが、ついに最後をとげてしまいました。だが、その夜から、敵の将校たちも、ひどい病気に取り付けれ、苦しんだということです。

このことを聞かれた元泰公は、よく働いてくれた弥三郎をとても哀れに思われ、西の小森に稲荷社を建て、ていねいに葬られました。そして、内藤氏の菩提寺である広庵寺に参詣の折には、近くの稲荷社に必ずお参りになったということです。

これが弥三郎稲荷の由来です。こうしたことから、住民は、お稲荷様を大切に守ってきたそうです。

今では、写真のように、風雨にさらされ荒れ果てたお稲荷様の姿ですが、２０年前に撮った写真では、１０ｃｍほどの陶器の狐が５体祀（まつ）られ、お供物も見えました。この稲荷社の大きさは、間口１ｍ、奥行１ｍ、高さ２ｍの木造瓦葺（かわらぶき）です。　（F.T）

（向原町誌下巻を参考にしました）

２０年前

現在の社の様子

長田下地域人物活躍伝①

まず写真を見てください。何だと思いますか。きれいに並んだ１８個の箱。水が入り、水草が植えてあります。それぞれに名札がついています。

もう、お分かりだと思います。これはメダカの飼育箱なのです。初めて見た時はびっくりしました。飼育されているＯさんによりますと、今メダカを飼うのが流行っており、昔、池や小川にいたメダカだけでなく、何十品種ものメダカがいるそうです。

Ｏさんも今２０品種の親メダカを育てており、その水槽が写真の箱です。よく管理されており、その熱心さに驚かされニュースにしました。これからは、「品種だけでなく、数をもっと増やして金魚すくいでなく、メダカすくいをやってみたい」と話しておられました。おもしろいのは、自分で卵を産ませ、新しい品種ができると自分が名前を付けられると言う事です。

飼育の仕方など詳しいことは次の機会にお知らせします。

２つ目は、「手作りブランコ」です。よく公園や広場などで木造りの二人がけのブランコを見て、家にあったらいいだろうなと思った人は多いと思います。ブランコに揺られてお茶を飲みホッと一息、最高です。

しかしながら、私自身、素人には、作るのはもちろん高価なものになるのではとあきらめていました。ところが、「かんたん木工細工」という本を見て、もしかしたらと思い、本の設計図通りに材料を揃え、その寸法通りに木を切り、順番に従って、組み立てていくとなんとブランコが出来たのです。

この「メダカ飼育」と「手作りブランコ」に関心のある方は、広報委員会まで連絡ください。　（Y. H）

長田下地域人物伝は今回お休みし、代わりに長田下地域人物活躍伝をお届けしました。

もし、長田下地域でこのような活躍というか、活動をされている方がおられましたら、広報委員会まで連絡ください。（☎４６－３８０１までお願いします）

発行：　長田下地域自治振興会　　担当：　広報委員会、企画調整部
（広報委員：松田清、谷林文男、寺尾文尚、火上保雄、児玉尊子、金岡俊信、岩見達也）